



研究室ホームページのトップ画面

名前	保地 眞一
所属部署	信州大学 繊維学部
職種	教授
この研究室に入った日	1996. 4. 1.
出身地	大阪府八尾市
趣味	スキー・アコギ独奏・たこ焼き製造・暴飲暴食

インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

ラット・ウサギ・ウマ・ウシ・クジラ・ヒトなど、様々な哺乳類を対象にして生殖工学的研究に没頭してきました。「精子・卵子・胚の保存」と「形質転換動物の利用」が二大柱で、現在はウシ未受精卵子とラット臍島の保存に照準を合わせています。

Q2 研究室の仕事の進め方は？

大学院生であれば自身の足跡を「学会発表」だけではなく「論文」として残すことを目標に定めさせ、かなり自由に実験をしてもらっています。永遠の共同研究先、生理学研究所（愛知県岡崎市）平林 真澄 先生とのお付き合いは、30年を超えました。

Q3 まだ実験をしていますか？

40歳を過ぎたあたりから目と腰に積年の疲れが出始め、（私自身は）顕微操作を伴う実験からは撤退しました。学部内でも管理職を長くやらされるようになったこともあり、今はウシ卵巣の運搬やCOC採取をお手伝いさせてもらうぐらいでしょうか・・・

Q4 この分野に入ったきっかけは何ですか？

岡山大学で内海 恭三 先生から研究の手解きを受け、雪印乳業研究員の時のトランスジェニック研究で京都大学 入谷 明 先生から博士の学位を頂けたことにより、アカポスへの転職を決心しました(当時29歳)。帯広畜産大学(総合馬学講座 小栗 紀彦 先生)を経て信州大学(資源生物学講座 花田 章 先生)に移り、現在に至ります。

Q5 今、何を一番知りたいですか？

その時々々の需要や興味に応じ、今なら「不妊治療」や「糖尿病治療」に活かせる技術開発につながってくれば、と考えてテーマ設定しています。あまりに細かい分子レベルの話には脳が拒否反応を示すので、実験手法や論文構成はかなりシンプルにする方だと思います。「今、これが知りたい」と言うよりむしろ、「仲間が苦心の末に得た研究成果をどうやって世の中に晒すか」に興味を持っています。

Q6 「繊維学部」って信州大学にしかないのでしょうか？

その通りです。本学部の中には農学部を小さくまとめたような応用生物科学科があり、動物(蚕)・植物・微生物・環境浄化まで、様々な素材を扱う20余名の研究者がいます。本学部を構成する他の3つの学科はバリバリの工学系ですが、材料系や機械系の研究者と容易にタイアップできるのはメリットです。一方、受験生向けの広報では、他の理系学部との相違点から丁寧に説明しないとなかなか興味を持ってもらえませんが・・・

Q7 最後に、第111回繁殖生物学会大会長として一言。

来年度(2018年)の繁殖生物学会大会は、高島 誠司 助教と私の2名しかSRD正会員がいない繊維学部キャンパス(長野県上田市)において、9月12~16日に開催すべく準備を始めています。長野冬季オリンピック開催(1998)により陸路でのアクセス(新幹線と高速道路)が整備され、真田丸ブーム(2016)により市街地インフラ(ホテル等)もかなり充実しました。皆様、初秋の風爽やかな信州・上田へ是非お越しく下さい。